

## 令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立筑波小学校	足利市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

## 2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

## (3) 自校における評価

本校の英会話学習の時間は、担任とEAA(英語活動協力員)とのチーム・ティーチング体制で年間10時間実施している。毎月第1月曜日に1・2年生、第2月曜日に3・4年生に位置付け実施。5・6年生については、ALT(外国語指導助手)と1学期に5時間、2学期の英語チャレンジDAYに5時間実施した。

第1学年からの英会話学習の実施により、児童は小学校の早い段階から英語に触れ、英語を身近に感じている。授業においては、学年に応じた様々な活動を通して、楽しく学習に取り組んでいる様子が見られ、興味関心が高まっていると思われる。発達段階に応じてゲーム等を取り入れながら、簡単な英単語、あいさつ、日常会話を学んでいる。児童は、校内で会うEAAやALT(外国語指導助手)に自らあいさつをしたり、自然と

英会話を日常生活で使ったりするなど、慣れ親しんでいる様子が見えてくる。今後も、児童が楽しく英会話学習に取り組み、力を付けていけるよう工夫しながら授業実践に努めたい。

#### (4) 学校関係者による評価

##### <児童>

- 英会話学習の時間を楽しみにしている児童が多い。低学年では、EAA からの INPUT の時間を大切にしながら、できるだけ多くの英単語に触れさせ、習得できるようにしたい。学年が上がるにつれ、少しずつ OUTPUT の時間も取り入れる。自主学習で英単語をノートに書いて練習したり、タブレットのスマイルネクストドリルで自主的に「英語」に取り組んだりしている児童も多い。
- EAA や ALT に気軽に話しかける児童も増えている。

##### <保護者>

- 小学校の低学年の段階から英語に触れ、英会話を楽しく学ぶことで、子供たちの英語に関する興味関心が高まっていると思われる。英語に対する抵抗感も少ないように感じる。
- 現在学んでいることが、中学校の「英語」につながっていく重要な学習であると考えている。

### 3. 実施の効果及び課題

児童も保護者も英会話学習に関して興味関心が高まっていると思われる。今後も、児童が楽しく有意義に学習できるよう、担任と EAA とで一単位時間の流れを工夫し、集中して取り組めるよう教材研究を重ねていきたい。

担任と EAA との打合せの時間を休み時間や昼休みに設定していたが、予定通り実施できないときは、担任裁量で5分休み等使い、打合せを行っていた。限られた時間内だが有意義な打合せの時間となるようにしたい。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

英会話学習の授業日や EAA との打合せ時間を含めた時間割一覧表を作成し、確実に実施していく。また、第3学年以上についても、実施時期を明確にし、着実な実施ができるようにする。